

研究課題名「炎症性腸疾患罹患者の消化管粘膜における α -synuclein 異常蓄積についての後ろ向き研究」に関する情報公開

1. 研究の対象

1993年9月以降に、当院で病理解剖(病気で亡くなった患者様に行う解剖/※本研究では脳または胃腸の検体を用います)、内視鏡的生検(胃カメラや大腸カメラでの組織検査)、消化管切除術(胃腸に対する外科手術)を受けられた方

2. 研究目的・方法・研究期間

パーキンソン病は、胃腸にアルファシヌクレインというタンパク質が異常に蓄積することが原因だと考えられています。胃腸に異常蓄積したアルファシヌクレインが神経を介して脳へ伝播し、パーキンソン病を発症するのです。

デンマークの大規模な疫学研究で、潰瘍性大腸炎やクローン病などの炎症性腸疾患がパーキンソン病のリスクである可能性が示されました。しかし、それは統計上の結論であり、炎症性腸疾患とパーキンソン病とがどのようなメカニズムで関連しているのかはまだ明らかにされていません。

本研究の目的は、炎症性腸疾患の患者様の胃腸にアルファシヌクレインが異常に蓄積しているかどうかを確認することです。

アルファシヌクレインの異常蓄積を顕微鏡で検出する方法がまだ確立されていない為、まずはパーキンソン病の患者様の脳や胃腸の検体を用いてアルファシヌクレインを染色する手法を最適化します。その後に、当院で保存されている検体にその染色を施し、アルファシヌクレインが異常蓄積しているかを観察します。

本研究は、生命倫理審査委員会の承認から2022年3月31日までを予定しています。

[研究組織]

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学 教授 藤城光弘
名古屋大学大学院医学系研究科 神経遺伝情報学 教授 大野欽司
名古屋大学大学院医学系研究科 神経遺伝情報学 講師 伊藤美佳子
名古屋大学大学院医学系研究科 神経遺伝情報学 助教 濱口知成
名古屋大学大学院医学系研究科 臓器病態診断学 准教授 中黒匡人
名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学 講師 中村正直
名古屋大学医学部附属病院 光学医療診療部 助教 山村健史
名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学 大学院生 宜保憲明

3. 研究に用いる試料・情報の種類

試料: 病理解剖(病気で亡くなった患者様に行う解剖)で得た脳または胃腸の標本、内視鏡的生検(胃カメラや大腸カメラでの組織検査)、消化管切除術(胃腸に対する外科手術)で得た胃腸の標本

情報: 病歴 等

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので、お申し付け下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて、患者様もしくは患者様の代理人の方のご了承を頂けない場合には、研究対象としませんので、下記の連絡先までお知らせ下さい。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

照会先 および 研究への利用を拒否する場合の連絡先:

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学

病院講師 中村正直

大学院生 宜保憲明

〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町 65

TEL:052-744-2166

FAX:052-744-2175

研究責任者:

名古屋大学大学院医学系研究科 消化器内科学 教授 藤城光弘